

心筋梗塞のリスクのうち高血圧、喫煙、糖尿病は女性のほうが関連強い

心筋梗塞のリスク因子において、性差を調査し、年齢による変動がみられるかについて、前向きコホート研究を実施し検討した。

UK Biobank の参加者の中から、心臓血管病の既往のない 471,998 例（女性 56%、平均年齢 56.2 歳）のデータを用いた。平均追跡期間 7 年間で 5,081 例（女性 28.8%）が心筋梗塞を発症した。1 万人年当たりの発生率は女性 7.76、男性 24.35 であった。男女とも、血圧、喫煙状況、BMI の上昇および糖尿病の罹患が心筋梗塞リスクの増加と関連したが、関連強さは年齢があがるとともに減弱した。女性は男性に比べ、収縮期血圧（男女のハザード比：1.09）、現喫煙（同：1.55）、1 型糖尿病（同：2.91）、2 型糖尿病（同：1.47）が心筋梗塞の発症とより強い関連がみられた。これらのハザード比は、年齢の上昇に伴って低下するとのエビデンスは認められなかった（ $P > 0.2$ ）。

したがって、心筋梗塞の発生率は男性のほうが女性よりも高いが、心筋梗塞とそのリスク因子である高血圧、喫煙、糖尿病との関連は女性でより強いことが示された。人口の高齢化の進行やリスク因子となる生活様式が増えるにつれて、女性の心筋梗塞の発症率は男性の発症率と同程度になる可能性がある。

出典：British Medical Journal. 2018 Nov 7; 363: k4247.